

和歌山県における 「定量的な基準」の導入に向けて

P. 1～ 他府県における「定量的な基準」の導入状況 など

P. 14～ 和歌山県における「定量的な基準」の導入に向けて（案）

【注意】平成30年診療報酬改定により入院基本料の体系の見直し（例：一般病棟7対1⇒急性期一般入院料1）がされているが、平成30年病床機能報告結果詳細が判明していないため、本資料では、旧体系の入院基本料で記載している。

他府県における「定量的な基準」の導入状況

府県名	基準の対象となる医療機能	「定量的な基準」の概要
埼玉県	高度急性期 急性期 回復期	<p><高度急性期・急性期の区分> A～Jの各項目（救命救急やICU等で特に多く提供されている医療）のうち、1項目以上が基準（閾値1）を超え⇒「高度急性期」</p> <p>A:全身麻酔下手術 B:胸腔鏡下手術 C:悪性腫瘍手術 D:超急性期脳卒中加算 E:脳血管内手術 F:経皮的冠動脈形成術 G:救急搬送診療科 H:救急医療に係る諸項目 I:重症患者対応（救急） J:全身管理への対応</p> <p><急性期・回復期の区分> K～Pの各項目（一般病棟7:1で多く提供されている医療等）のうち、1項目以上が基準（閾値2）を超え⇒「急性期」</p> <p>K:手術 L:胸腔鏡・腹腔鏡下手術 M:放射線治療 N:化学療法 O:救急搬送による予定外入院 P:重症度、医療・看護必要度</p>
奈良県	急性期	<p>急性期を重症と軽症に区分する目安を示した上で病床機能報告を求める。</p> <p>・50床あたりの手術＋救急入院件数 \geq 2件/日 ⇒「重症急性期」 ・同 $<$ 2件/日 ⇒「軽症急性期」</p>
大阪府	急性期	<p>病床機能報告における急性期病棟について、50床あたり一日平均で①～④の各項目のうち、</p> <p>・いずれかを満たす ⇒「重症急性期」 ・いずれも満たさない ⇒「地域急性期（サブアキュート、ポストアキュート）」</p> <p>①手術総数算定回数「1以上」 ②化学療法算定日数「1以上」 ③救急医療加算管理レセプト件数「1以上」 ④呼吸心拍監視（3時間超7日以内）「2以上」</p>
佐賀県	急性期 回復期	病床機能報告における急性期病棟のうち、平均在棟日数が22日超の病棟 ⇒「回復期」

他府県における「定量的な基準」の留意点

- 先行4府県の基準にはそれぞれ着眼点があり、分析結果の解釈にあたって留意が必要

(※) 本県にあてはめた分析結果は「資料1-3」

府県名	基準の対象となる医療機能	結果解釈にあたっての留意点
埼玉県	高度急性期 急性期 回復期	<ul style="list-style-type: none"> ・評価にあたって医療手技に重点が置かれているため、高度技術を必要とする脳外科、循環器系を主体とする病棟が高度急性期にあてはまりやすい。 ・地域性を考慮する必要がある。 例) 紀南のように高度救急医療を一点集中に集約した地域では、周辺病院は、軽症～中等症の救急を引受けるという役割分担が既にできあがっている。 この場合、年間900件前後の救急搬送を受けていても、重症の割合が低く、急性期と判定されない。 ・病棟単位での評価のため、混合病棟(重症者が分散されている場合)は、過小評価されやすい。
奈良県	急性期	<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送件数を反映している。 ⇒ 本件における基準を検討するにあたり、救急搬送データで代用可能か(※後述)
大阪府	急性期	<ul style="list-style-type: none"> ・「重症急性期」の判定は、①の閾値超えが主体であり、手術実績を反映している。 ・埼玉県の基準よりは、①の閾値は甘い(埼玉基準 2以上/床/月に対し、大阪基準を埼玉基準に換算すると1.2/床/月) <div> ①手術総数算定回数「1以上」 ②化学療法算定日数「1以上」 ③救急医療加算管理レセプト件数「1以上」 ④呼吸心拍監視(3時間超7日以内)「2以上」 </div>
佐賀県	急性期 回復期	<ul style="list-style-type: none"> ・血液疾患は急性期でも病気の特性上治療期間が長くなるため、解釈に注意が必要 ・医療技術の提供の程度は反映していない

急性期医療は2つタイプがある

埼玉基準



① 至急かつ高度医療技能を必要とするケース



奈良基準

② 至急の対応を必要とするケース

手術件数

救急入院件数

救急搬送データがより②のケースを反映
するのではないか

先行 4 府県の「定量的な基準」を和歌山県にあてはめた影響

(A) 平成 29 年病床機能報告ベース						
圏域	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし
和歌山	6,099	1,261	2,511	695	1,399	233
那賀	1,110	0	522	179	409	0
橋本	841	10	467	179	185	0
有田	696	0	266	207	223	0
御坊	869	8	507	93	261	0
田辺	1,640	36	924	141	525	14
新宮	1,024	0	492	114	397	21
県計	12,279	1,315	5,689	1,608	3,399	268

埼玉県の基準は、
「①高度急性期と急性期の境界」
及び
「②急性期と回復期の境界」
を評価

奈良県、大阪府、佐賀県の基準は、
「②急性期と回復期の境界」
を評価

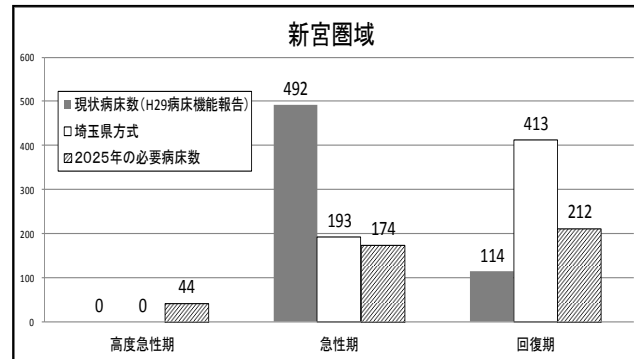
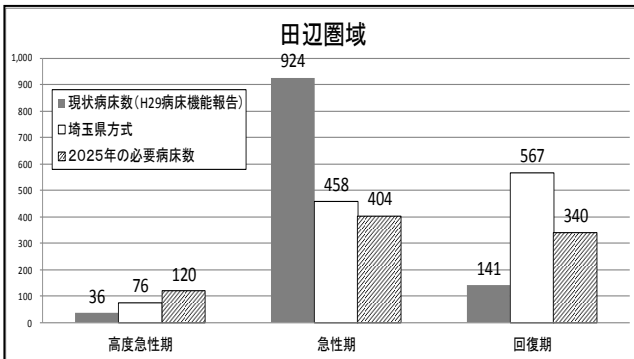
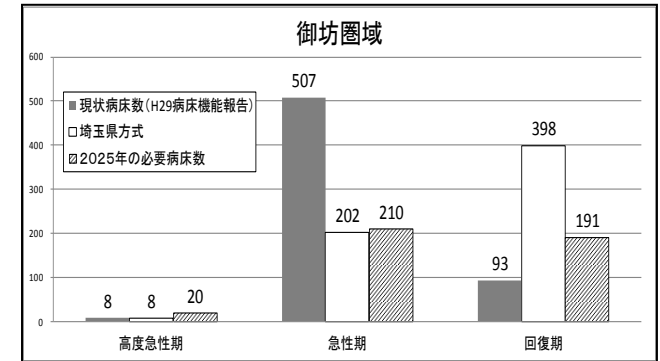
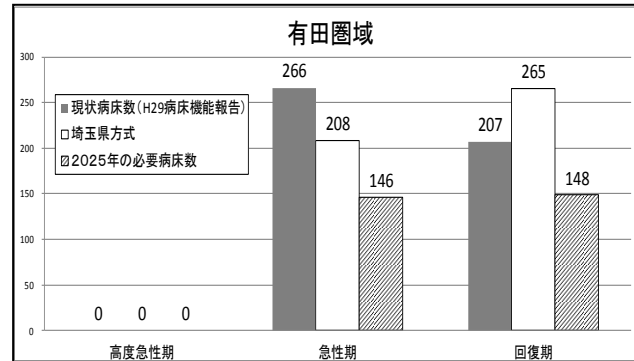
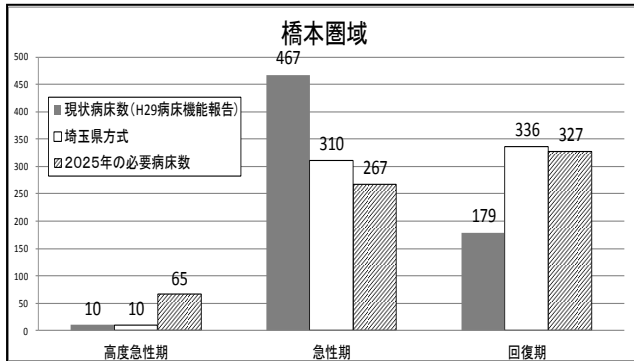
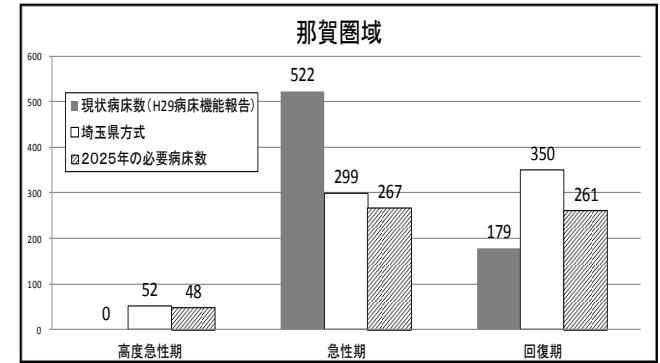
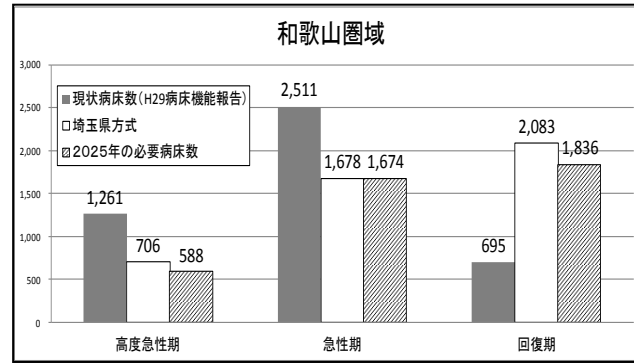
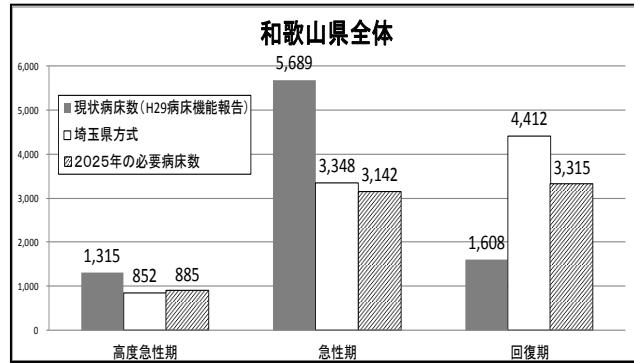
分析結果

(1) 埼玉県方式							(2) 奈良県方式						(3) 大阪府方式						(4) 佐賀県方式					
圏域	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし
和歌山	6,099	706	1,678	2,083	1,399	233	6,099	1,261	1,849	1,357	1,399	233	6,099	1,261	1,425	1,781	1,399	233	6,099	1,261	1,993	1,213	1,399	233
那賀	1,110	52	299	350	409	0	1,110	0	411	290	409	0	1,110	0	368	333	409	0	1,110	0	404	297	409	0
橋本	841	10	310	336	185	0	841	10	409	237	185	0	841	10	360	286	185	0	841	10	418	228	185	0
有田	696	0	208	265	223	0	696	0	240	233	223	0	696	0	173	300	223	0	696	0	240	233	223	0
御坊	869	8	202	398	261	0	869	8	377	223	261	0	869	8	120	480	261	0	869	8	407	193	261	0
田辺	1,640	76	458	567	525	14	1,640	36	890	175	525	14	1,640	36	321	744	525	14	1,640	36	744	321	525	14
新宮	1,024	0	193	413	397	21	1,024	0	433	173	397	21	1,024	0	342	264	397	21	1,024	0	337	269	397	21
県計	12,279	852	3,348	4,412	3,399	268	12,279	1,315	4,609	2,688	3,399	268	12,279	1,315	3,109	4,188	3,399	268	12,279	1,315	4,543	2,754	3,399	268

差引き

(1)-(A) 埼玉県方式による影響							(2)-(A) 奈良県方式による影響						(3)-(A) 大阪府方式による影響						(4)-(A) 佐賀県方式による影響					
圏域	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし	小計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	分類なし
和歌山	0	▲ 555	▲ 833	1,388	0	0	0	0	▲ 662	662	0	0	0	0	▲ 1,086	1,086	0	0	0	0	▲ 518	518	0	0
那賀	0	52	▲ 223	171	0	0	0	0	▲ 111	111	0	0	0	0	▲ 154	154	0	0	0	0	▲ 118	118	0	0
橋本	0	0	▲ 157	157	0	0	0	0	▲ 58	58	0	0	0	0	▲ 107	107	0	0	0	0	▲ 49	49	0	0
有田	0	0	▲ 58	58	0	0	0	0	▲ 26	26	0	0	0	0	▲ 93	93	0	0	0	0	▲ 26	26	0	0
御坊	0	0	▲ 305	305	0	0	0	0	▲ 130	130	0	0	0	0	▲ 387	387	0	0	0	0	▲ 100	100	0	0
田辺	0	40	▲ 466	426	0	0	0	0	▲ 34	34	0	0	0	0	▲ 603	603	0	0	0	0	▲ 180	180	0	0
新宮	0	0	▲ 299	299	0	0	0	0	▲ 59	59	0	0	0	0	▲ 150	150	0	0	0	0	▲ 155	155	0	0
県計	0	▲ 463	▲ 2,341	2,804	0	0	0	0	▲ 1,080	1,080	0	0	0	0	▲ 2,580	2,580	0	0	0	0	▲ 1,146	1,146	0	0

●前ページの埼玉県方式を本県にあてはめた影響をグラフ化すれば下記のとおり (高度急性期、急性期、回復期への影響)



埼玉県方式の分析結果に係る考察（その①）

- 本県のI C U病棟等（下記16病棟）に埼玉県基準を当てはめると、
全て『高度急性期並み』と評価

	医療機関名	病棟名	医療機能 (報告)	許可 病床数	稼働 病床数	<埼玉県基準> 高度急性期並み
1	和歌山県立医科大学 附属病院	4階ICU(特定集中治療室管理料2)	高度急性期	10	10	○
2		4階HCU(救命救急入院料1)	高度急性期	15	15	○
3		7階CCU(救命救急入院料2)	高度急性期	5	5	○
		小計		30	30	
4	日本赤十字社 和歌山医療センター	本館7階A病棟(救命ICU)	高度急性期	22	12	○
5		本館7階A病棟(院内ICU)	高度急性期	8	8	○
6		本館7階B病棟	高度急性期	44	23	○
		小計		74	43	
7	和歌山労災病院	ICU/救急	高度急性期	4	4	○
8	海南医療センター	5階病棟(HCU)	高度急性期	8	7	○
	和歌山圏域 小計			116	84	
9	橋本市市民病院	HCU	高度急性期	6	6	○
10	紀和病院	HCU	高度急性期	4	4	○
	橋本圏域 小計			10	10	
11	国保日高総合病院	2階ハイケアユニット	高度急性期	4	4	○
12		5階ハイケアユニット	高度急性期	4	4	○
	御坊圏域 小計			8	8	
13	紀南病院	特定集中治療室	高度急性期	8	7	○
14	南和歌山医療センター	救命救急センター 救命救急入院料1	高度急性期	16	16	○
15		救命救急センター HCU入院医療管理料1	高度急性期	4	4	○
16		救命救急センター 特定集中治療室管理料4	高度急性期	2	2	○
		小計		22	22	
	田辺圏域 小計			30	29	
	和歌山県 合計			164	131	16病棟

【数値出典等】

平成29年度病床機能報告
(平成29年7月1日現在)

【分析対象病棟】

- ・救命救急病棟、I C U病床
- ・「小児」「産科」等は除く

埼玉県方式の分析結果に係る考察（その②）

- 本県の 7 対 1 基準の病棟に埼玉県基準をあてはめると、一定機能以上の各病棟が、「高度急性期並み」と評価。

高度急性期並み					急性期並み				回復期並み				
医療機関名	病棟名	医療機能 (報告)	許可 病床数	稼働 病床数	病棟名	医療機能 (報告)	許可 病床数	稼働 病床数	病棟名	医療機能 (報告)	許可 病床数	稼働 病床数	
和歌山県立医科大学 附属病院	7階東病棟	高度急性期	52	52	5階西病棟	高度急性期	40	40	8階西病棟	高度急性期	50	50	
	8階東病棟	高度急性期	50	50	6階東病棟	高度急性期	50	50	11階病棟	高度急性期	50	50	
	9階東病棟	高度急性期	50	50	7階西病棟	高度急性期	43	43	12階病棟	急性期	50	50	
	9階西病棟	高度急性期	50	50	10階西病棟	高度急性期	50	50	急性期基準に満たない病床 小計		150	150	
	12階西病棟	高度急性期	50	50	11階西病棟	急性期	50	50					
	高度急性期相当 小計		252	252	急性期相当 小計		233	233					
日本赤十字社 和歌山医療センター	南館5階病棟	高度急性期	53	52	本館9階A病棟	高度急性期	52	52	南館8階病棟	高度急性期	48	48	
	南館6階病棟	高度急性期	53	52	南館2階病棟	高度急性期	46	46	急性期基準に満たない病床 小計		48	48	
	本館9階B病棟	高度急性期	52	52	南館7階病棟	高度急性期	54	53					
	本館11階病棟	高度急性期	24	23	南館9階病棟	高度急性期	54	53					
	高度急性期相当 小計		182	179	本館10階A病棟	高度急性期	52	52					
					本館10階B病棟	急性期	52	52					
				急性期相当 小計		310	308						
済生会和歌山病院	3階西病棟	急性期	29	29	4階西病棟	急性期	35	35	3階東病棟	急性期	35	35	
	高度急性期相当 小計		29	29	5階病棟	急性期	26	26	4階東病棟	急性期	35	35	
					急性期相当 小計		61	61	急性期基準に満たない病床 小計		70	70	
和歌山労災病院	該当なし				東4階病棟	急性期	46	46	南4階病棟	急性期	53	52	
					南5階病棟	急性期	50	50	東5階病棟	急性期	50	50	
					東6階病棟	急性期	50	50	急性期基準に満たない病床 小計		103	102	
					南6階病棟	急性期	50	50					
					急性期相当 小計		196	196					
誠佑記念病院	一般病棟(2階)	急性期	41	41	該当なし				該当なし				
	一般病棟(3階)	急性期	41	41									
	高度急性期相当 小計		82	82									
和歌山生協病院	該当なし				2階病棟	急性期	52	52	該当なし				
					3階病棟	急性期	54	54					
					急性期相当 小計		106	106					
海南医療センター	該当なし				4階病棟	急性期	51	50	4階病棟	急性期	48	48	
					5階病棟	急性期	43	43	急性期基準に満たない病床 小計		48	48	
					急性期相当 小計		94	93					
和歌山圏域 小計①			545	542	和歌山圏域 小計②			1,000	997	和歌山圏域 小計③		419	418
												1,964	1,957

【数値出典等】平成29年度病床機能報告（平成29年7月1日現在） 【分析対象病棟】・救命救急病棟、ICU病床 ・「小児」「産科」等は除く

高度急性期並み					急性期並み				回復期並み				
医療機関名	病棟名	医療機能 (報告)	許可 病床数	稼働 病床数	病棟名	医療機能 (報告)	許可 病床数	稼働 病床数	病棟名	医療機能 (報告)	許可 病床数	稼働 病床数	
公立那賀病院	4階北病棟	急性期	52	52	3階南病棟	急性期	51	51	該当なし				
	高度急性期相当 小計		52	52	4階南病棟	急性期	50	50					
					5階南病棟	急性期	51	51					
					急性期相当 小計		152	152					
那賀圏域 小計①			52	52	那賀圏域 小計②			152	152	那賀圏域 小計③		0	0
紀和病院	該当なし				3階西病棟	急性期	56	56	該当なし				
					急性期相当 小計		56	56					
橋本圏域 小計①			0	0	橋本圏域 小計②			56	56	橋本圏域 小計③		0	0
済生会有田病院	該当なし				一般病棟(3階)	急性期	35	35	該当なし				
					一般病棟(4階)	急性期	34	34					
					一般病棟(5階)	急性期	35	35					
					急性期相当 小計		104	104					
有田圏域 小計①			0	0	有田圏域 小計②			104	104	有田圏域 小計③		0	0
北出病院	該当なし				一般3階病棟	急性期	50	50	一般4階病棟	急性期	40	40	
					急性期相当 小計		50	50	急性期相当 小計		40	40	
御坊圏域 小計①			0	0	御坊圏域 小計②			50	50	御坊圏域 小計③		40	40
紀南病院	該当なし				5階東病棟	急性期	50	49	7階東病棟	急性期	44	44	
					5階西病棟	急性期	46	46	5階東病棟	急性期	44	44	
					6階東病棟	急性期	46	46	急性期基準に満たない病床 小計		88	88	
					6階西東病棟	急性期	48	48					
					急性期相当 小計		190	189					
南和歌山医療センター	5階西病棟	急性期	40	40	4階西病棟	急性期	42	42	4階東病棟	急性期	48	48	
	高度急性期相当 小計		40	40	6階東病棟	急性期	50	50	5階東病棟	急性期	50	50	
					6階西病棟	急性期	50	50	急性期基準に満たない病床 小計		98	98	
					急性期相当 小計		142	142					
田辺圏域 小計①			40	40	田辺圏域 小計②			332	331	田辺圏域 小計③		186	186
和歌山県 合計①			637	634	和歌山県 合計②			1,694	1,690	和歌山県 合計③		645	644

那賀圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
204	204

橋本圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
56	56

有田圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
104	104

御坊圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
90	90

田辺圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
558	557

和歌山県	
2,976	2,968

那賀圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
204	204

橋本圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
56	56

有田圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
104	104

御坊圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
90	90

田辺圏域	
許可 病床数	稼働 病床数
558	557

和歌山県	
2,976	2,968

【 数値出典等 】 平成29年度病床機能報告（平成29年7月1日現在） 【 分析対象病棟 】 ・救命救急病棟、I C U 病床 ・「小児」「産科」等は除く

埼玉県方式の分析結果に係る考察（まとめ）

- 医療手技に重点を置いてデータ分析を行う埼玉県方式による「定量的な基準」は、和歌山県内各病院の病棟にあてはめた場合でも、
 - ・I C U等の「4対1」基準病棟は、全てが高度急性期並み
 - ・「7対1」基準病棟のうち、一部は高度急性期並み と評価
- 高度急性期の基準（急性期との境界）について、埼玉県方式をベースとして考えてよいのでは。

14ページ以降において本県基準（案）を提示

また一方で…

- 「急性期⇔回復期」については、5ページ（棒グラフ資料）に示すとおり、埼玉県方式を単純にあてはめても、本県にはなじまない。

紀南地域を中心として、急性期病床（病棟）が過小評価されるとともに、回復期とされるものが大幅に見受けられる傾向

- 奈良県などでは、救急搬送数を考慮した検証を行っているが、先行4府県や厚労省ではいずれも参照していない、軽症から重篤例まで幅広く含む「救急搬送データ」（消防庁）に着目し、本県で検証を行った。
- また、佐賀県基準で参照している平均在棟日数等についても検証。

県内病院における救急搬送数

●県内病院の救急搬送数（総数、中等症以上）を考慮した際、その件数が一定基準よりも少ない病院については、「急性期機能を担っている」と言えるものかどうか。

二次医療圏	搬送機関：機関名	初診医療評価							総計
		1-死亡	2-重篤	3-重症	4-中等症	中等症 以上小計	5-軽症	6-その他	
	和歌山 日本赤十字社 和歌山医療センター	132	14	552	2,592	3,290	4,086	7	7,383
	和歌山 和歌山県立医科大学附属病院	124	57	637	1,897	2,715	2,404	3	5,122
	田辺 国立病院機構南和歌山医療センター	65	8	423	1,248	1,744	1,509		3,253
	和歌山 和歌山労災病院	40		124	759	923	1,951		2,874
	田辺 紀南病院	62	4	165	786	1,017	1,358		2,375
	那賀 公立那賀病院	51	1	255	951	1,258	1,051		2,309
	橋本 橋本市市民病院	44		266	770	1,080	824		1,904
	新宮 新宮市立医療センター	47		215	685	947	861		1,808
	和歌山 済生会和歌山病院	2	1	50	393	448	1,167	2	1,615
☆	御坊 国保日高総合病院	34	11	199	470	714	735		1,449
☆	和歌山 堀口記念病院	2		11	178	191	1,017	2	1,210
	御坊 北出病院	21	11	81	426	539	452		991
	新宮 くしもと町立病院	39		118	349	506	474		980
	田辺 白浜はまゆう病院	18		80	191	289	544		833
	新宮 那智勝浦町立温泉病院	33		68	242	343	380		723
	橋本 医療法人南労会 紀和病院	11		97	243	351	272		623
	和歌山 和歌山生協病院	3		16	192	211	391		602
	和歌山 医療法人愛晋会 中江病院			20	140	160	436		596
	有田 済生会有田病院	31	2	120	248	401	172		573
	有田 有田市立病院	23	31	65	201	320	221		541
	和歌山 誠佑記念病院	6	1	49	236	292	236		528
	那賀 貴志川リハビリテーション病院			68	157	225	290	1	516
	和歌山 海南医療センター	5		56	216	277	235		512
	橋本 和歌山県立医科大学附属病院紀北分院	18		26	139	183	268		451
	和歌山 向陽病院	2		2	83	87	323		410
	田辺 医療法人研医会田辺中央病院		1	27	129	157	251		408
	和歌山 医療法人 須佐病院			3	98	101	278		379
	和歌山 橋本病院			6	71	77	246		323
	有田 西岡病院	2	7	59	106	174	142		316
	和歌山 国保野上厚生総合病院	13		39	142	194	119		313
	和歌山 医療法人恵友会恵友病院	7	3	20	121	151	161		312
	橋本 山本病院	4		22	130	156	129		285
☆	御坊 整形外科北裏病院	2		36	69	107	130		237
☆	御坊 国立病院機構和歌山病院	21	5	33	128	187	39		226
	和歌山 医療法人了生会古梅記念病院	1		15	76	92	104		196
	田辺 国保ささみ病院	10		10	62	82	113		195
	和歌山 医療法人裕紫会 中谷病院	4		9	34	47	145		192
	和歌山 今村病院				19	19	168		187
	那賀 医療法人共栄会名手病院	6		17	63	86	91		177
	那賀 稲穂会病院			11	40	51	92		143
	和歌山 石本病院	8		1	78	87	52		139
	那賀 医療法人富田会富田病院	4		15	65	84	52		136
	和歌山 医療法人曙会和歌浦中央病院			2	39	41	76		117
	有田 医療法人千徳会桜ヶ丘病院	4	10	6	20	40	61		101

二次医療圏	搬送機関：機関名	初診医療評価							総計
		1-死亡	2-重篤	3-重症	4-中等症	中等症 以上小計	5-軽症	6-その他	
	和歌山 医療法人久仁会宇都宮病院			3	28	31	56		87
	有田 和歌山県立こころの医療センター			12	15	27	55		82
	和歌山 上山病院		1	2	7	10	66		76
	和歌山 高山病院				12	12	32		44
	那賀 殿田胃腸肛門病院	1		2	21	24	14		38
	和歌山 角谷整形外科病院			2	12	14	20		34
	田辺 紀南こころの医療センター			4	6	10	23		33
	和歌山 児玉病院	1		5	13	19	12		31
	和歌山 河西田村病院				14	14	17		31
	和歌山 福外科病院				14	14	13		27
	和歌山 和歌山リハビリテーション病院			1	13	14	11		25
	和歌山 嶋病院	3		3	11	17	4		21
	和歌山 西和歌山病院			1	13	14	6		20
	和歌山 稲田病院			1	7	8	8		16
	橋本 紀の郷病院			7	3	10	3		13
	田辺 玉置病院			2	9	11	2		13
	和歌山 谷口病院			1	8	9	3		12
	和歌山 田村病院			1	3	4	5		9
	和歌山 琴の浦リハビリテーションセンター附属病院			3	2	5	4		9
	有田 有田南病院			5	2	7	2		9
	和歌山 宮本病院				4	4	4		8
	那賀 紀の川病院			2	3	5	3		8
	和歌山 和歌浦病院				1	1	5		6
	新宮 潮岬病院			1	1	2	2		4
	新宮 一般財団法人新宮病院			1	1	2	1		3
	新宮 串本有田病院			1	2	3			3

【数値出典】 2016年消防統計

傷病者重症度分類表

死亡：初診時死亡が確認されたもの

重篤：生命の危険が切迫しているもの

① 心・呼吸の停止または停止のおそれがあるもの。

② 心肺蘇生を行ったもの。

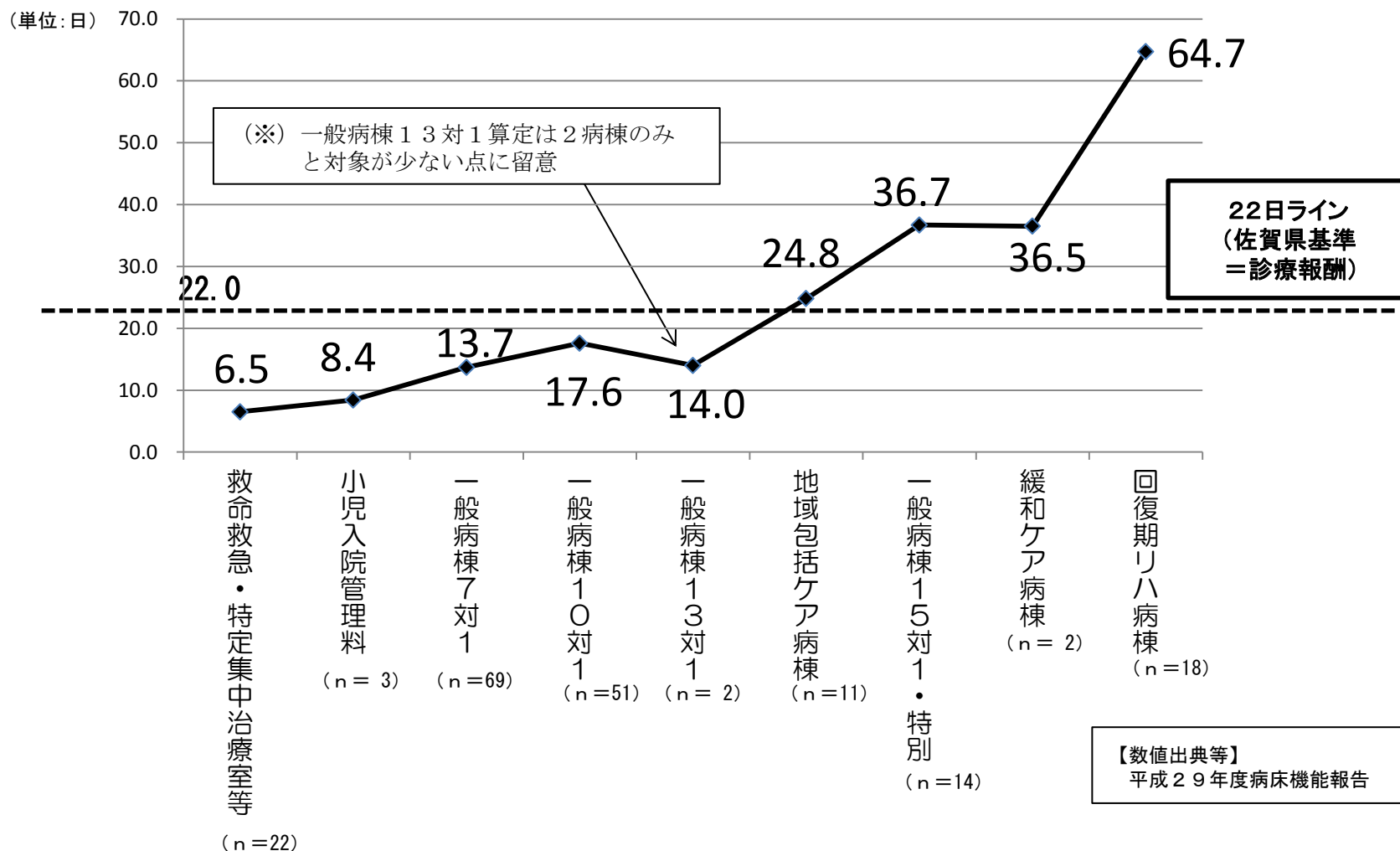
重症：生命の危険の可能性のあるもの

中等症：生命の危険はないが入院（3週間以内）を要するもの

軽症：入院を要しないもの

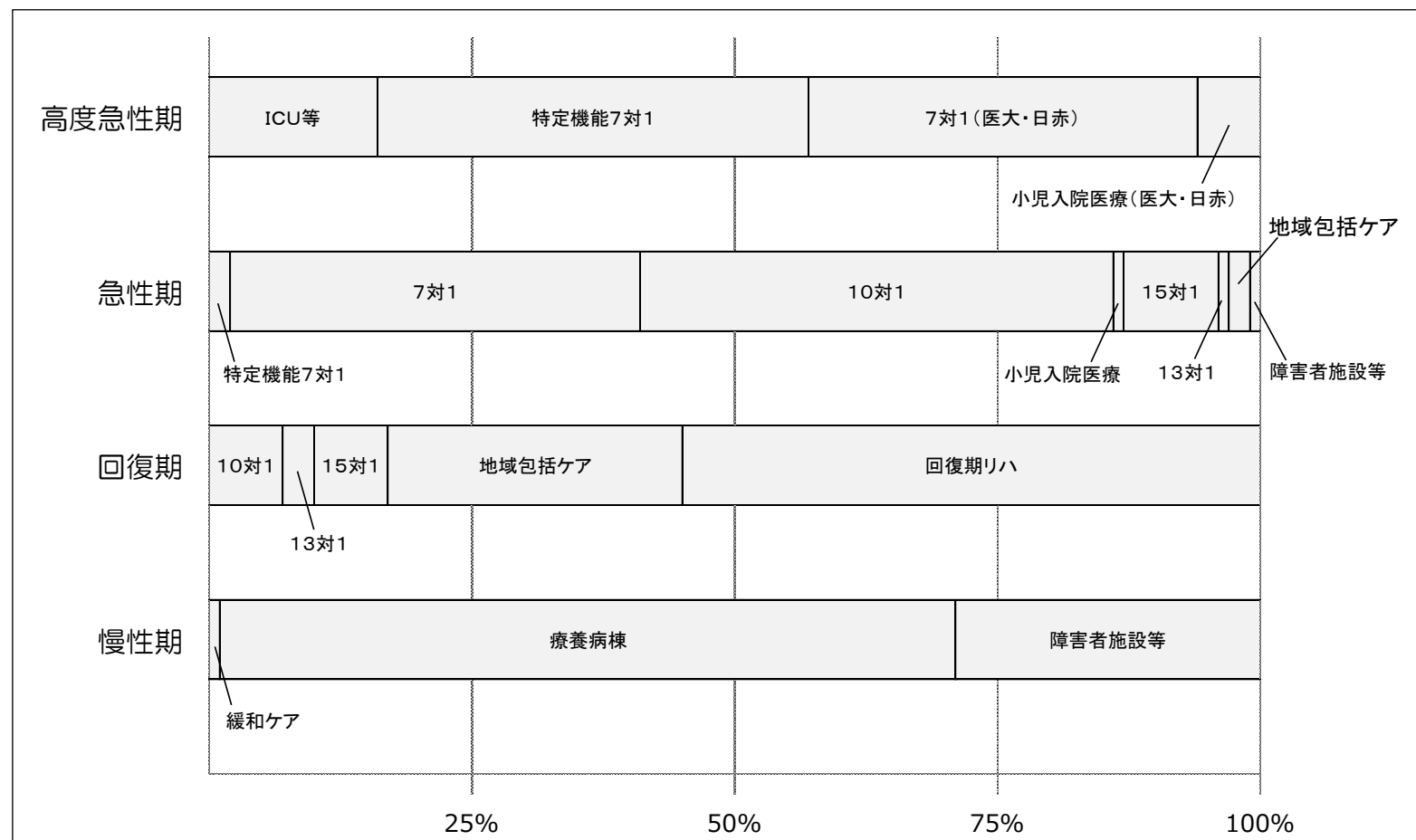
各入院基本料ごとの平均在棟日数（単純平均）

- 県内病院の平均在棟日数（入院基本料別）は下表のとおり。
一般病棟（10対1）以上が、急性期相当の在棟日数であるという傾向。



【参考】病床機能区分別の入院基本料（割合）

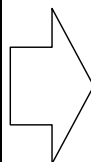
- また、現状の病院報告結果を見ても、急性期と報告されている病棟は、概ね「一般病棟 10 対 1 基準」以上の病棟がその大半を占める。



先行4府県の基準のいずれによっても「急性期と評価されない」病棟

- 主に「一般病棟15対1」基本料を算定する下記9病院（10病棟）の場合、先行4府県のいずれの基準をあてはめても、急性期の基準には満たない。
- これらの病院は「救急搬送データ」（10ページ）でみても救急搬送数が相当少数。
- 急性期に満たない要因として救急搬送数が関連しているならば、「救急搬送データ」を基準として用いてはどうか。

医療機関名	病棟	㉔入院基本料	㉕入院基本料	㉔病院報告
A病院	a-1病棟	15対1	地域一般3	急性期
	a-2病棟	15対1	地域一般3	急性期
B病院	b-1病棟	15対1	地域一般3	急性期
	b-2病棟	15対1	地域一般3	急性期
C病院	c病棟	15対1	急性期一般5	急性期
D病院	d病棟	15対1	地域一般3	急性期
E病院	e病棟	15対1	地域一般3	急性期
F病院	f病棟	一般病棟特別	一般病棟特別	急性期
G病院	g病棟	10対1	急性期一般6	急性期
H病院	h病棟	10対1	急性期一般7	急性期
I病院	i病棟	10対1	地域一般3	急性期



埼玉基準	奈良基準	大阪基準	佐賀基準
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期
回復期	軽症急性期	地域急性期	回復期

2016救急搬送件数	
中等症以上	総数
92	196
107	237
17	21
7	9
2	3
0	0
10	76
12	44
5	9

和歌山県における「定量的な基準」の導入に向けて（案）

- ついては、「以下2種類の基準」を併せ、和歌山県における基準としてはどうか。

和歌山基準①

【高度急性期と急性期の境界】

医療手技に着目した分析が可能な埼玉県方式をベースとして、
本県の基準を考える。

和歌山基準②

【急性期と回復期の境界】

より簡便で明快な基準を導入するという趣旨からも、
客観的な「救急搬送データ」を用いて本県の基準を考える。

- また、基準①、②の両者を包含する「病院として果たす機能」を踏まえた上で、
本県の基準を考える。

地域医療構想における将来の病床機能と病院の機能等

- 地域医療構想を進めていく上で、「病院の機能」としては、概ね下表のように整理ができるのではないかと。
- 「定量的な基準」を考える際にあって、下表の考え方を反映してはどうか。

病床機能	患者像	病院の機能	診療報酬等	病床機能報告
高度急性期	重症急性期	<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター(3次救急) ・周産期母子医療センター ・地域の拠点病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICU、HCU、CCU、NICU等 ・一般入院(7対1)のうち特に認めるもの 	高度急性期
急性期	急性期	<ul style="list-style-type: none"> ・二次救急病院 ・救急告示病院(救急搬送数) ・DPC参加病院 ・災害拠点病院 ・特定の診療科 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児、周産期、緩和ケア(急性期)等 ・一般入院(7対1～10対1) 	急性期
回復期	サブアキュート ポストアキュート リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型協力病院 ・回復期病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア病床 ・回復期リハビリ ・一般入院(13対1～15対1) 	回復期
慢性期	長期療養	<ul style="list-style-type: none"> ・療養病院 ・重症心身障害児者施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・療養入院 ・障害者医療に関する入院 ・緩和ケア(急性期以外) 	慢性期

「定量的な基準」その①（高度急性期の病床機能（急性期との境界））

- 高度急性期機能に係るこれまでの議論も踏まえて、下記①～③のとおり、本県における考え方を整理してはどうか。（この際、医療手技に重点を置く埼玉県基準をベースにして、本県の基準を考える）

- ① ICU病床などの4対1基準の病床は、地域医療構想策定前後からの関係者の議論結果を踏まえて、全て高度急性期機能とする。
- ② 7対1基準の一般病棟のうち、県全体において果たす役割や機能を考慮した上で一定の基準を満たす病棟（下記※）については、高度急性期機能であると（和歌山県基準として）認めてはどうか。

（※）特定機能病院、救命救急センター、周産期母子医療センターである病院（県立医大附属病院、日赤医療センター、南和歌山医療センター、紀南病院の4病院）の7対1基準の一般病棟であって、かつ、過去3年間の実績が埼玉県基準の「閾値1」を超える病棟は、各構想区域の必要病床数の範囲内で、高度急性期並みの医療を提供していると報告することを認める。

- ③ ②に関連して、7対1基準の病棟であって高度急性期並みに該当しない（＝閾値を超えない）病棟は、急性期機能として報告することを原則とする。
（⇒ 7対1基準で、回復期との報告は認めない）

「定量的な基準」その②（急性期の病床機能（回復期との境界））

●急性期機能に関しては、下記①②の考え方によって基準を整理してはどうか。

- ① 一般病棟（7対1基準）のうち、高度急性期と報告しない病棟は、急性期機能として報告することを原則とする。（回復期とは報告しない。）
- ② 一般病棟（10対1、13対1、15対1基準）及び地域包括ケア病棟については、「急性期と報告する場合には、それに相応しい機能を伴っているか」の観点より基準を設定してはどうか。

⇒ 10～13ページにおける検証結果を踏まえ、
本県においては、救急搬送件数に着目して基準を設定してはどうか。

当該病院が「実質的な意味での救急医療」を担っているかどうか。（救急搬送受入 年間300件以上など）

次ページ
参照

県内病院における救急搬送数を踏まえた急性期の基準（案）

二次医療圏	搬送機関：機関名	初診医師							総計
		1-死亡	2-重篤	3-重症	4-中等症	中等症 以上小計	5-軽症	6-その他	
和歌山	日本赤十字社 和歌山医療センター	132	14	552	2,592	3,290	4,086	7	7,383
和歌山	和歌山県立医科大学附属病院	124	57	637	1,897	2,715	2,404	3	5,122
田辺	国立病院機構南和歌山医療センター	65	8	423	1,248	1,744	1,509		3,253
和歌山	和歌山労災病院	40		124	759	923	1,951		2,874
田辺	紀南病院	62	4	165	786	1,017	1,358		2,375
那賀	公立那賀病院	51	1	255	951	1,258	1,051		2,309
橋本	橋本市市民病院	44		266	770	1,080	824		1,904
新宮	新宮市立医療センター	47		215	685	947	861		1,808
和歌山	済生会和歌山病院	2	1	50	393	446	1,167	2	1,615
☆	御坊 国保日高総合病院	34	11	199	470	714	735		1,449
和歌山	堀口記念病院	2		11	178	191	1,017	2	1,210
☆	御坊 北出病院	21	11	81	426	539	452		991
新宮	くしもと町立病院	39		118	349	506	474		980
田辺	白浜はまゆう病院	18		80	191	289	544		833
新宮	那智勝浦町立温泉病院	33		68	242	343	380		723
橋本	医療法人南労会 紀和病院	11		97	243	351	272		623
和歌山	和歌山生協病院	3		16	192	211	391		602
和歌山	医療法人愛晋会 中江病院			20	140	160	436		596
有田	済生会有田病院	31	2	120	248	401	172		573
有田	有田市立病院	23	31	65	201	320	221		541
和歌山	誠佑記念病院	6	1	49	236	292	236		528
那賀	貴志川リハビリテーション病院			68	157	225	290	1	516
和歌山	海南医療センター	5		56	216	277	235		512
橋本	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院	18		26	139	183	268		451
和歌山	向陽病院	2		2	83	87	323		410
田辺	医療法人研医会田辺中央病院		1	27	129	157	251		408
和歌山	医療法人 須佐病院			3	98	101	278		379
和歌山	橋本病院			6	71	77	246		323
有田	西岡病院	2	7	59	106	174	142		316
和歌山	国保野上厚生総合病院	13		39	142	194	119		313
和歌山	医療法人恵友会恵友病院	7	3	20	121	151	161		312
橋本	山本病院	4		22	130	156	129		285
☆	御坊 整形外科北裏病院	2		36	69	107	130		237
☆	御坊 国立病院機構和歌山病院	21	5	33	128	187	39		226
和歌山	医療法人了生会古梅記念病院	1		15	76	92	104		196
田辺	国保すみみ病院	10		10	62	82	113		195
和歌山	医療法人裕栄会 中谷病院	4		9	34	47	145		192
和歌山	今村病院				19	19	168		187
那賀	医療法人共栄会名手病院	6		17	63	86	91		177
那賀	稲穂会病院			11	40	51	92		143
和歌山	石本病院	8		1	78	87	52		139
那賀	医療法人富田会富田病院	4		15	65	84	52		136
和歌山	医療法人曙会和歌浦中央病院			2	39	41	76		117
有田	医療法人千徳会桜ヶ丘病院	4	10	6	20	40	61		101

二次医療圏	搬送機関：機関名	初診医師							総計
		1-死亡	2-重篤	3-重症	4-中等症	中等症 以上小計	5-軽症	6-その他	
和歌山	医療法人久仁会宇都宮病院			3	28	31	56		87
有田	和歌山県立こころの医療センター			12	15	27	55		82
和歌山	上山病院		1	2	7	10	66		76
和歌山	高山病院				12	12	32		44
那賀	殿田胃腸肛門病院	1		2	21	24	14		38
和歌山	角谷整形外科病院			2	12	14	20		34
田辺	紀南こころの医療センター			4	6	10	23		33
和歌山	児玉病院	1		5	13	19	12		31
和歌山	河西田村病院				14	14	17		31
和歌山	福外科病院				14	14	13		27
和歌山	和歌山リハビリテーション病院			1	13	14	11		25
和歌山	嶋病院	3		3	11	17	4		21
和歌山	西和歌山病院			1	13	14	6		20
和歌山	稲田病院			1	7	8	8		16
橋本	紀の郷病院			7	3	10	3		13
田辺	玉置病院			2	9	11	2		13
和歌山	谷口病院			1	8	9	3		12
和歌山	田村病院			1	3	4	5		9
和歌山	琴の浦リハビリテーションセンター附属病院			3	2	5	4		9
有田	有田南病院			5	2	7	2		9
和歌山	宮本病院				4	4	4		8
那賀	紀の川病院			2	3	5	3		8
和歌山	和歌浦病院			1	1	2	5		6
新宮	潮岬病院			1	1	2	2		4
新宮	一般財団法人新宮病院			1	1	2	1		3
新宮	串本有田病院			1	2	3			3

【数値出典】 2016年消防統計

和歌山県独自の基準（案）

- ①救急搬送
中等症以上
≥100件/年
- または
- ②救急搬送総計
≥300件/年
- ①②いずれかを満たす

2017（平成29）年救急搬送数ベース

二次医療圏	搬送機関：機関名	初診医師評価							総計
		1-死亡	2-重篤	3-重症	4-中等症	中等症 以上小計	5-軽症	6-その他	
和歌山	日本赤十字社 和歌山医療センター	149	1	576	2,721	3,447	4,240	3	7,690
和歌山	和歌山県立医科大学附属病院	96	8	690	1,882	2,676	2,378	2	5,056
田辺	独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター	73	14	347	1,338	1,772	1,502		3,274
和歌山	独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山労災病院	37		147	776	960	2,149	3	3,112
田辺	紀南病院	49	5	207	783	1,044	1,382	1	2,427
那賀	公立那賀病院	37		317	962	1,316	968		2,284
橋本	橋本市民病院	42		288	794	1,124	858		1,982
新宮	新宮市立医療センター	53		249	680	982	892		1,874
和歌山	済生会和歌山病院			29	418	447	1,276		1,723
☆	御坊 国保日高総合病院	28	10	225	556	819	784		1,603
☆	御坊 北出病院	29	7	127	432	595	521		1,116
	新宮 くしもと町立病院	29		111	375	515	541		1,056
	有田 有田市立病院	46		124	411	581	416		997
田辺	白浜はまゆう病院	14	1	74	253	342	631		973
新宮	那智勝浦町立温泉病院	33		57	278	368	433		801
和歌山	海南医療センター	15		83	300	398	359		757
橋本	医療法人南労会 紀和病院	6		99	245	350	306		656
和歌山	和歌山生協病院	2		18	179	199	438		637
有田	済生会有田病院	33		133	265	431	174		605
和歌山	堀口記念病院			1	78	79	513		592
和歌山	医療法人愛晋会 中江病院	3		26	143	172	416		588
橋本	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院	34		35	168	237	272		509
和歌山	誠佑記念病院			56	243	299	185		484
那賀	貴志川リハビリテーション病院			73	149	222	256		478
和歌山	医療法人 橋本病院			7	87	94	327		421
田辺	医療法人研医会 田辺中央病院	1		24	105	130	289		419
和歌山	須佐病院			9	94	103	303	2	408
和歌山	国保野上厚生総合病院	23		53	146	222	142		364
和歌山	向陽病院			8	53	61	298		359
和歌山	恵友病院	6		12	133	151	173		324
橋本	社会医療法人 博寿会 山本病院	6		16	138	160	162		322
有田	医療法人たちばな会 西岡病院	3		38	122	163	107		270
那賀	稲穂会病院	1		12	101	114	146		260
☆	御坊 整形外科北森病院	3	1	54	63	121	112		233
☆	御坊 独立行政法人国立病院機構 和歌山病院	25	3	47	102	177	31		208
和歌山	古梅記念病院			14	61	75	96		171
那賀	名手病院	2		24	60	86	81		167
田辺	国保ささみ病院	13		11	43	67	98		165
和歌山	医療法人曙会 和歌浦中央病院			1	46	47	107		154
和歌山	医療法人裕葉会 中谷病院			6	25	31	123		154
那賀	富田病院	1		18	55	74	78		152
和歌山	今村病院				9	9	127		136
和歌山	医療法人琴仁会 石本病院	5		4	64	73	43		116
和歌山	上山病院	1		1	9	11	76		87

二次医療圏	搬送機関：機関名	初診医師評価							総計
		1-死亡	2-重篤	3-重症	4-中等症	中等症 以上小計	5-軽症	6-その他	
和歌山	宇都宮病院	1		3	18	22	55		77
有田	和歌山県立こころの医療センター			6	18	24	47		71
有田	桜ヶ丘病院	10		4	26	40	23		63
和歌山	角谷整形外科病院				16	16	23		39
和歌山	医療法人博文会 児玉病院			5	25	30	6		36
和歌山	高山病院				14	14	19		33
和歌山	福外科病院		2		16	18	12		30
和歌山	医療法人青松会 河西田村病院			3	6	9	20		29
和歌山	伏虎リハビリテーション病院		2		16	18	11		29
那賀	殿田胃腸肛門病院		2		17	19	6		25
那賀	紀の川病院			3	8	11	11		22
田辺	紀南こころの医療センター			2		2	19		21
和歌山	嶋病院	2			11	13	7		20
和歌山	医療法人良友会 西和歌山病院				8	8	12		20
和歌山	稲田病院			2	3	5	11		16
田辺	医療法人宝山会 白浜小南病院				3	3	5		8
和歌山	琴の浦リハビリテーションセンター附属病院		1		2	3	4		7
田辺	医療法人洗心会 玉置病院				6	6	1		7
有田	有田南病院			1	4	5	1		6
和歌山	医療法人 田村病院		2			2	4		6
和歌山	医療法人 宮本病院			1	2	3	3		6
和歌山	医療法人旭会 和歌浦病院					0	6		6
新宮	一般財団法人 新宮病院			2	3	5			5
和歌山	笠松病院				2	2	2		4
新宮	医療法人日進会 日進会病院				3	3	1		4
橋本	紀の郷病院				1	1	3		4
和歌山	医療法人晃和会 谷口病院			2	2	2	2		4
新宮	医療法人健佑会 串本有田病院				4	4			4
新宮	医療法人 芳純会 潮岬病院		1		1	2	1		3
和歌山	医療法人 藤民病院			2	2	2			2
和歌山	向井病院				1	1			1

【数値出典】 2017年消防統計

和歌山県独自の基準(案)

- ①救急搬送
中等症以上
≥100件/年
- ②救急搬送総計
≥300件/年
- または
- ①②いずれかを満たす

和歌山県における「定量的な基準」(案) (まとめ)

区分	基準の対象となる医療機能	「定量的な基準」（案）	
和歌山基準①	高度急性期 急性期	● I C Uなどの4対1基準の病棟は全て「高度急性期」	
		● 7対1基準の一般病棟のうち、県全体において果たす役割を考慮した上で、次のA～Jの10項目のうち、1項目以上が基準超えの病棟は「高度急性期」	
		項 目 A) 全身麻酔手術	2回/床/月
		項 目 B) 胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/床/月
		項 目 C) 悪性腫瘍手術	0.5回/床/月
		項 目 D) 超急性期脳卒中加算	(レセプト件数)あり
		項 目 E) 脳血管内手術	(算定回数)あり
		項 目 F) 経皮的冠動脈形成術	0.5回/床/月
		項 目 G) 救急搬送診療科	(算定回数)あり
		項 目 H) 救急諸項目	0.2回/床/月
		項 目 I) 重症患者対応(救急)	0.2回/床/月
		項 目 J) 全身管理への対応	8回/床/月
		●上記以外の7対1基準の一般病棟は「急性期」	
和歌山基準②	急性期 回復期	●救急搬送件数が下記のいずれにも満たない病院は「急性期」と報告しない	
		項 目) 救急搬送件数(消防統計)	年間300件以上
			中等症以上が年間100件以上

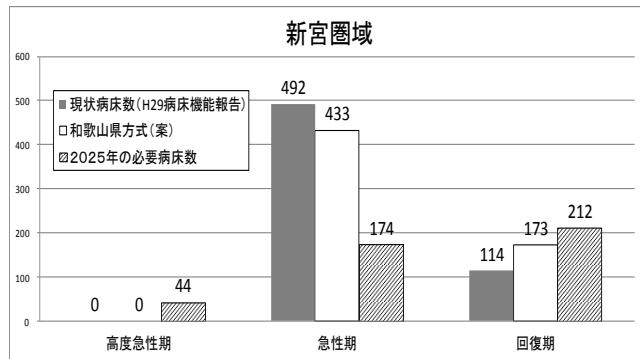
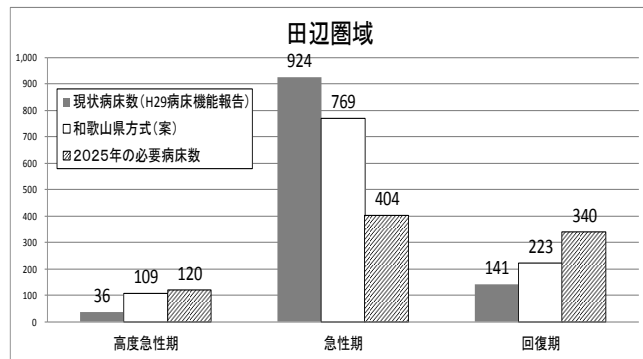
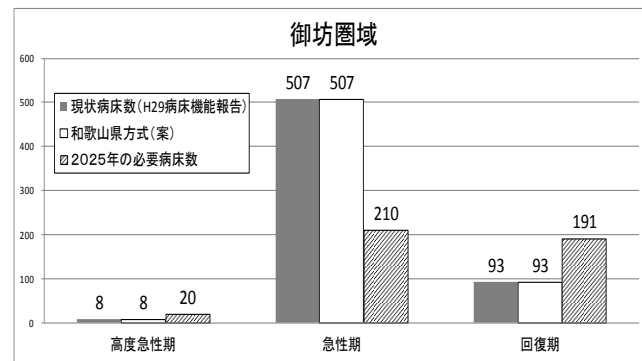
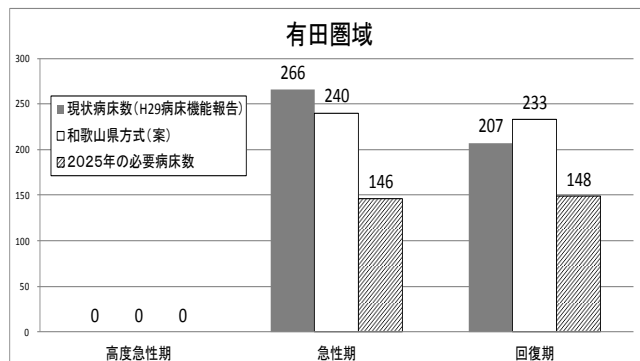
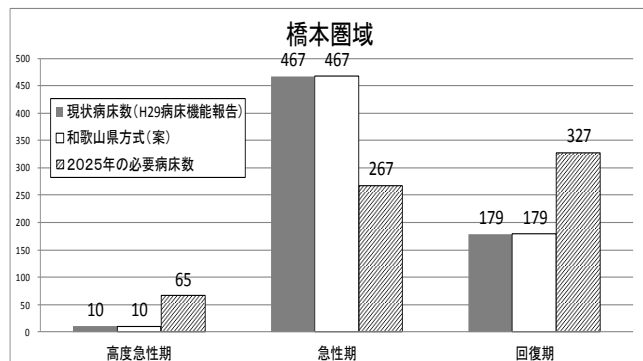
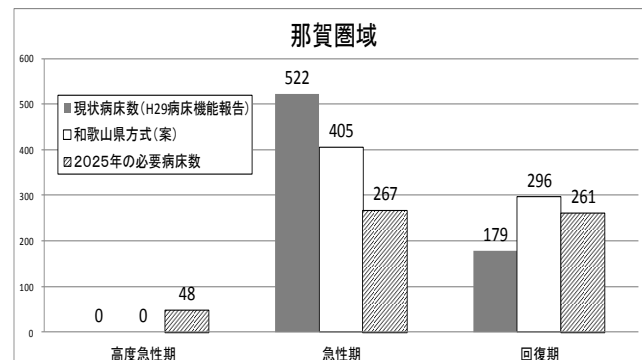
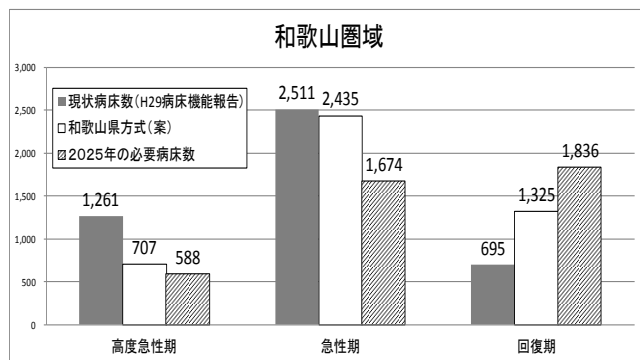
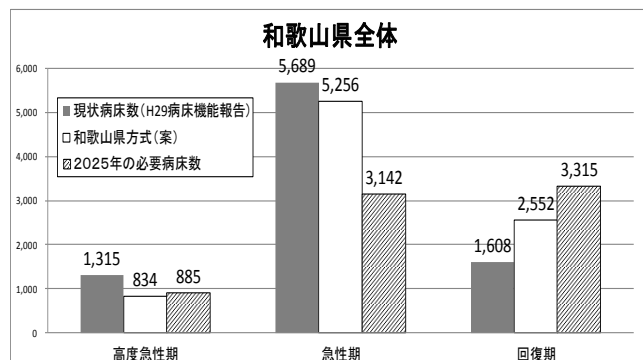
詳細はP. 16参照

埼玉県の閾値1
と同じ

本県独自

(※) 小児・周産期・緩和ケアなど、地域医療に不可欠であって特殊性の強い病棟は、上記の基準とは切り分けて考えるものとする。

●前ページの和歌山県方式（案）をあてはめた場合の影響をグラフ化 （高度急性期、急性期、回復期への影響）



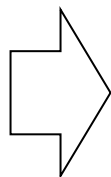
「定量的な基準」の導入に向けて（最後に）

（１）本県において「定量的な基準」を導入する意義

- ① 一般病棟（７対１基準）に関して、高度急性期並みか急性期並みかの客観的な目安を提示するもの。
- ② 一般病棟（１０対１、１３対１、１５対１基準）及び地域包括ケア病棟に関して、急性期機能と名乗るに相応しい機能を果たしているのか否かの、客観的な目安を提示するもの。

（２）「定量的な基準」を導入する目的・狙い（再掲：資料１－１にて先述）

- ① 各医療機関が病床機能報告を行うにあたっての報告基準を新たに設けるものではない。
- ② 各医療機関が、地域における自らの医療機能（例：地域医療に必要な救急受入件数など急性期機能の充足度を評価する）に関する立ち位置をより正確に把握することによって、実態に合った自主的な病床機能報告につなげようとする趣旨。
- ③ また、「定量的な基準」を、医療機能や供給量を把握するための客観的な目安として地域医療構想調整会議の議論に活用することによって、議論の活性化につなげようとするもの。



- 「定量的な基準」によって病床機能の見える化を図り、機能分化を進める。
- 並行して『公的病院を中心とした再編・ネットワーク化』や『長期にわたる非稼働病床（病棟）の整理』などの取組を引き続き進めていく。

以下、資料1-2関係「参考資料」

県内拠点病院等の状況について

(平成30年12月現在)

二次医療圏	医療機関名	災害拠点病院	災害支援病院	救命救急センター	周産期母子医療センター	へき地医療拠点病院	地域医療支援病院	がん診療連携拠点病院	がん診療連携推進病院	難病医療拠点病院	肝疾患診療連携拠点病院	エイズ治療拠点病院	認知症疾患医療センター	該当数
和歌山	県立医科大学附属病院	●(総合)		●(高度)	●(総合)			●(県)		●	●	●	●	8
	日本赤十字社和歌山医療センター	●(総合)		●(高度)	●(地域)		●	●(地域)				●		6
	和歌山労災病院	●					●		●					3
	済生会和歌山病院		●											1
	海南医療センター		●											1
	国保野上厚生総合病院		●			●								2
那賀	公立那賀病院	●						●(地域)						2
	貴志川リハビリテーション病院		●											1
橋本	橋本市民病院	●				●		●(地域)						3
	県立医科大学附属病院紀北分院		●											1
	南労会紀和病院		●											1
有田	有田市立病院	●												1
	済生会有田病院		●											1
御坊	国保日高総合病院	●				●			●				●	4
	国立病院機構和歌山病院		●											3
	北出病院		●				●			●				1
田辺	紀南病院	●			●(地域)	●		●(地域)						4
	国立病院機構南和歌山医療センター	●		●			●	●(地域)			●	●	●	7
	白浜はまゆう病院		●											1
	国保すみみ病院		●											1
新宮	新宮市立医療センター	●					●		●					3
	くしもと町立病院		●											1
	那智勝浦町温泉病院		●											1
県計		10	13	3	3	4	5	6	3	2	2	3	3	

「高度急性期」病床のあり方（方向性案）について

「高度急性期」に係る2025年度必要病床数（県全体で「885床」）の全県的な割り振り方法等に関して、県地域保健医療協議会（1月22日）開催後の整理（方向性案）は、以下のとおり。

《「県地域保健医療協議会」における意見》

重症患者に対応する病院には、総合的な力が求められるものであり、医療従事者を手厚く配置する等の体制が必要である。

これらのことを勘案すると、重症患者に対応する高度急性期病床については、各圏域単位での割り振りにとらわれることなく全県的に考える必要があり、現行の医療提供体制から考えれば、主として和歌山圏域と田辺圏域に高度急性期病床を集約化すべきである。

（※）地域医療構想策定ガイドラインにおいても、高度急性期については、他の圏域の医療機関で医療を提供することも検討することと規定。

上記意見を受けての「高度急性期」病床に係る和歌山県の考え方

- ① 各医療圏で公的拠点病院が現在保有する救命救急、ICU、NICUなどの病床（平成28年2月現在：県内計223床）を原則とする。
- ② 推計される必要病床数（885床）は、全県で保有する。
- ③ ②と①の差（662床）は、主として和歌山圏域及び田辺医療圏域に集約化する。
- ④ ③の病床について、和歌山圏域では、特定機能病院かつ高度救命センターである県立医大病院と高度救命センターである日赤医療センターに、田辺医療圏では、救命救急センターである南和歌山医療センターに割り振る。
- ⑤ 今後、ICUなどの病床整備を具体的に予定している医療圏にあつては、一定の病床を割り振ることを検討する。

（※）急性期病床で3,000点以上の患者を現行どおり入院させることも可能。各病院は直ちに現有病床を削減するわけではなく、構想策定後、今後10年間かけて患者の動向、診療報酬改定等を見極めていく。

和歌山県地域医療構想の策定にあたり、
高度急性期の必要病床数は、
和歌山圏域への一定の集中化
を図ったもの。
（次ページのとおり）

高度急性期の必要病床数に係る全県的検討の結果について

地域医療構想策定時
検討資料より

各圏域において現状保有するICU病床等の内訳について							
現 状							
	小計	救命救急	ICU	HCU	NICU	MFICU	GCU
(下記4病院の計)	168	86	22	8	22	6	24
①県立医大附属病院	63	20	10		9	6	18
②日赤医療センター	89	66	8		9		6
③和歌山労災病院	8		4		4		
④海南医療センター	8			8			
(那賀圏域においては、現状、該当病床無し)							
橋本市民病院	6			6			
(有田圏域においては、現状、該当病床無し)							
国保日高総合病院	7			4	3		
(下記2病院の計)	42	16	10	4	6	0	6
①紀南病院	20		8		6		6
②南和歌山医療センター	22	16	2	4			
(新宮圏域においては、現状、該当病床無し)							
(上記8病院の合計)	223	102	32	22	31	6	30

「病床機能報告」 (病院の自主的報告)		
(単位:床)		
圏域名・病院名	高度急性期(「報告」ベース)	
	H27.7.1現在	6年後の予定
和歌山圏域	1,281	1,281
県立医科大附属病院	635	635
日赤和歌山医療センター	591	591
和歌山労災病院	4	4
海南医療センター	51	51
那賀圏域	0	0
公立那賀病院	0	0
橋本圏域	6	6
橋本市民病院	6	6
有田圏域	0	0
有田市立病院	0	0
御坊圏域	4	4
国保日高総合病院	4	4
田辺圏域	36	36
紀南病院	14	14
南和歌山医療センター	22	22
新宮圏域	0	50
新宮市立医療センター	0	50
県計	1,327	1,377

国「ツール」より推計結果			
圏域名	a	b	c
	2013年度の必要病床数	2025年度の必要病床数(医療機関所在地ベース)	2025年度必要病床数
和歌山	511	517	588
那賀	43	48	48
橋本	63	65	65
有田	24	25	0
御坊	41	41	20
田辺	151	145	120
新宮	48	44	44
県計	881	885	885

和歌山圏域への集中化

※「高度急性期」に係る和歌山県全体の必要病床数推計は「885床」※

救急搬送の症状別搬送数からみた重症患者受入れ状況等

【数値出典】 2016年消防統計

医療圏	医療機関名 (※)三次救急医療機関	初診医評価										
		①死亡	②重篤	③重症	④中等症	⑤軽症	⑥その他	総計 (①～⑥)		重症以上 (①～③)	重症以上 (人口10万対)	
1	和歌山	県立医科大学附属病院(※)	124	57	637	1,897	2,404	3	5,122		818	130
2		日赤和歌山医療センター(※)	132	14	552	2,592	4,086	7	7,383		698	111
3		和歌山労災病院	40		124	759	1,951		2,874		164	26
4		済生会和歌山病院	2	1	50	393	1,167	2	1,615		53	8
5		海南医療センター	5		56	216	235		512		61	10
6		国保野上厚生総合病院	13		39	142	119		313		52	8
7	那賀	公立那賀病院	51	1	255	951	1,051		2,309		307	49
8	橋本	橋本市民病院	44		266	770	824		1,904		310	49
9		県立医科大学附属病院紀北分院	18		26	139	268		451		44	7
10	有田	有田市立病院	23	31	65	201	221		541		119	86
11		済生会有田病院	31	2	120	248	172		573		153	111
12	御坊	国保日高総合病院	34	11	199	470	735		1,449		244	177
13		国立病院機構和歌山病院	21	5	33	128	39		226		59	43
14	田辺	紀南病院	62	4	165	786	1,358		2,375		231	118
15		南和歌山医療センター(※)	65	8	423	1,248	1,509		3,253		496	253
16		国保すさみ病院	10		10	62	113		195		20	10
17	新宮	新宮市立医療センター	47		215	685	861		1,808		262	134
18		那智勝浦町立温泉病院	33		68	242	380		723		101	52
19		くしもと町立病院	39		118	349	474		980		157	80
19公的病院の小計		794	134	3,421	12,278	17,967	12	34,606		4,349		
その他の医療機関(19公的病院以外)		135	52	1,030	4,212	9,126	19	14,574		1,217		
全医療機関		929	186	4,451	16,490	27,093	31	49,180		5,566		

紀北地域
(人口
約63万人)

紀中地域
(人口
約14万人)

紀南地域
(人口
約20万人)

【ポイント】
紀南地域における三次救急医療機関である
南和歌山医療センターにおいて、重症以上
の救急搬送受入れが顕著

救急搬送の症状別搬送数からみた重症患者受入れの状況（主要5病院抽出）

